

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国 13年7月)

### ～コア CPI は年末にかけて 1%程度まで上昇へ

経済研究部 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コア CPI 上昇率は 2 ヶ月連続のプラス

総務省が 8 月 30 日に公表した消費者物価指数によると、13 年 7 月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比 0.7%（6 月：同 0.4%）と 2 ヶ月連続のプラスとなり、上昇率は前月から 0.3 ポイント拡大した。事前の市場予想（QUICK 集計：0.6%、当社予想も 0.6%）を上回る結果であった。コア CPI 上昇率は直近 3 ヶ月で 1.1 ポイント拡大しており、予想を上回るスピードで物価上昇が進んでいる。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.1%（6 月：同▲0.2%）、総合は 0.7%（6 月：同 0.2%）となった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
12年 4月	0.4	0.2	▲0.3	▲0.3	▲0.5	▲1.0
5月	0.2	▲0.1	▲0.6	▲0.5	▲0.8	▲1.3
6月	▲0.2	▲0.2	▲0.6	▲0.6	▲0.6	▲1.0
7月	▲0.4	▲0.3	▲0.6	▲0.8	▲0.6	▲1.0
8月	▲0.4	▲0.3	▲0.5	▲0.7	▲0.5	▲0.9
9月	▲0.3	▲0.1	▲0.6	▲0.7	▲0.4	▲1.1
10月	▲0.4	0.0	▲0.5	▲0.8	▲0.4	▲1.0
11月	▲0.2	▲0.1	▲0.5	▲0.5	▲0.5	▲0.9
12月	▲0.1	▲0.2	▲0.6	▲0.6	▲0.6	▲1.0
13年 1月	▲0.3	▲0.2	▲0.7	▲0.5	▲0.5	▲0.9
2月	▲0.7	▲0.3	▲0.9	▲0.9	▲0.6	▲1.0
3月	▲0.9	▲0.5	▲0.8	▲1.0	▲0.5	▲0.8
4月	▲0.7	▲0.4	▲0.6	▲0.6	▲0.3	▲0.7
5月	▲0.3	0.0	▲0.4	▲0.2	0.1	▲0.3
6月	0.2	0.4	▲0.2	0.0	0.2	▲0.4
7月	0.7	0.7	▲0.1	0.4	0.3	▲0.4
8月	—	—	—	0.5	0.4	▲0.4

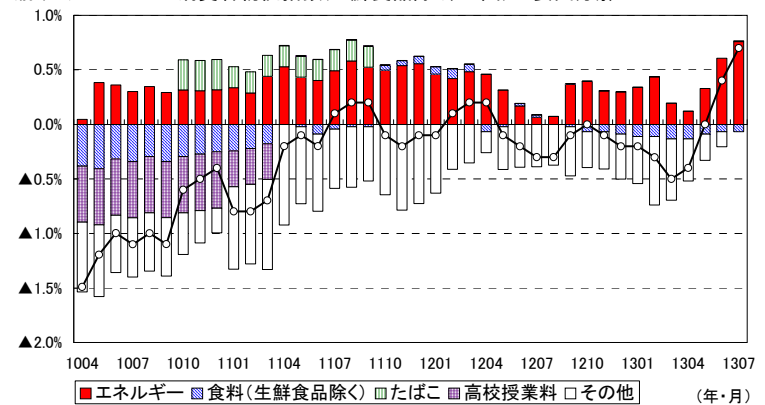
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳をみると、電気代（6 月：前年比 9.8%→7 月：同 10.1%）、ガス代（6 月：前年比 2.8%→7 月：同 3.5%）、ガソリン（6 月：前年比 6.4%→7 月：同 10.5%）、灯油（6 月：前年比 6.2%→7 月：同 10.0%）の上昇幅がいずれも拡大したため、エネルギー価格の上昇率は 6 月の前年比 7.0%から同 8.7%へと高まった。

また、被服及び履物（6 月：前年比 0.2%→7 月：同 0.8%）、諸雑費（6 月：前年比 0.6%→7 月：同 1.0%）の上昇率が高まったこともコア CPI を押し上げた。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が 0.76%（6 月は 0.61%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.07%（6 月は▲0.07%）、その他が 0.01%（6 月は▲0.14%）であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



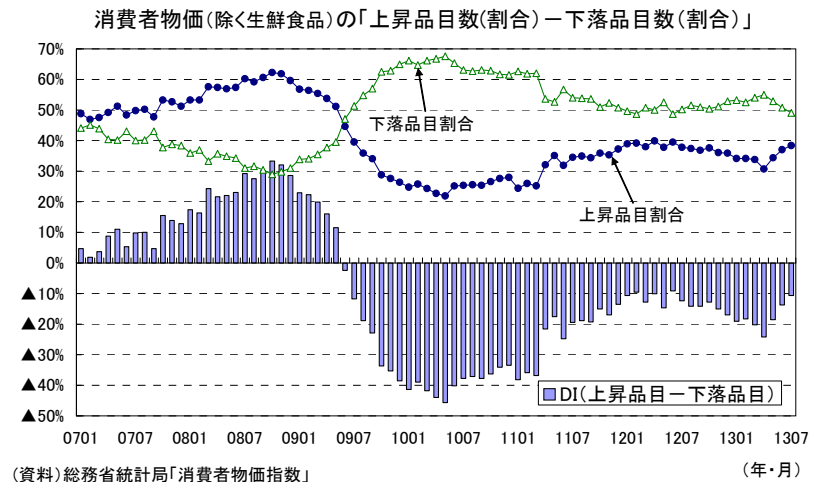
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

## 2. 物価上昇品目数が3ヵ月連続で増加

消費者物価指数の調査対象 524 品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、7月の上昇品目数は201品目（6月194品目）、下落品目数は257品目（6月は266品目）となり、上昇品目数が3ヵ月連続で増加した。

上昇品目数の割合は38.4%（6月は37.0%）、下落品目数の割合は49.0%（6月は50.8%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲10.7%（6月は▲13.7%）であった。

上昇品目数は依然として下落品目数を下回っているが、直近3ヵ月で40品目増加しており、原材料価格の上昇を価格転嫁する動きが徐々に広がってきたとみることができる。



## 3. コア CPI 上昇率は年末にかけて1%程度まで拡大へ

13年8月の東京都区部のコアCPIは前年比0.4%（7月：同0.3%）となり、上昇率は前月から0.1ポイント拡大した。事前の市場予想（QUICK集計：0.4%、当社予想は0.5%）通りの結果であった。エネルギー価格は前年比10.8%と7月の同11.5%からは上昇幅が縮小したが、3ヵ月連続で二桁の高い伸びとなった。また、カレーパン、マーガリン、しょう油などが上昇に転じたことから、食料品（生鮮食品を除く）が前年比0.1%（7月：同▲0.4%）と09年5月以来、4年3ヵ月ぶりの上昇となった。

東京都区部のコアCPI上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.66%（7月は0.69%）、食料品（生鮮食品を除く）が0.00%（7月は▲0.08%）、その他が▲0.25%（7月は▲0.30%）であった。

シリア情勢の緊迫化から原油価格はここに来て大幅に上昇しており、8月に入ってから横ばい圏で推移しているガソリン店頭価格は再び上昇し、電気代なども含めたエネルギー価格は先行きも高めの伸びが続くことが見込まれる。

また、全国の食料品（生鮮食品を除く）は前年比マイナスが続いているが、マヨネーズ、風味調味料など一部の品目ではすでに値上げが行われている。8月の東京都区部の結果からすれば、全国の食料品（生鮮食品を除く）も近いうちにプラスに転じることが確実とみられる。

さらに、13年度中は消費税率引き上げ前の駆け込み需要もあり、需給バランスの大幅な改善が続くことが見込まれることも物価の上昇要因となる。コアCPIの上昇率は年末にかけて1%程度まで高まることが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保证するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。